

妊産婦メンタルヘルスの知見と今後動向研究

研究分担者 吉田敬子（九州大学病院 子どものこころの診療部特任教授）

研究要旨

海外ならびに日本で行われた分担研究者の周産期領域における妊婦の精神的状態の解析と支援研究から、今後は妊娠期からのメンタルヘルスの取り組みが重要であることが推察された。次年度の本研究結果から新たな政策提言を予定している。

A. 研究目的

我が国における周産期精神疾患における研究を総括し、妊婦メンタルヘルスの妊娠期からの取り組みについて評価する。

B. 研究方法

分担研究者がこれまでに行ってきた研究と海外の成績から考察する。

C. 研究結果

わが国での産後うつ病の頻度や発症の状況を調査する直接の契機となったのは、九州大学病院産婦人科中野教授が、自らを班長とする厚生省（現厚生労働省）の班研究を平成4年度から立ち上げたことである。それはわが国での周産期精神医学を専門とする精神科医師と産科医師および助産師を研究班員とする画期的な研究を立ち上げであった。多領域スタッフによるわが国での実際の援助の方法については、先の述べた精神科と産科スタッフ間の共同研究から始まった。平成4年度（1992年）から、厚生省心身障害研究「妊産婦をとりまく諸要因と母子の健康に関する総合的研究」が始まった。これをきっかけに、大学病院の産科および精神科の医療機関が連携して、産後うつ病の頻度や発症関連要因が検討された。先に述べた国際比較研究とわが国での研究

から、わが国においても産後うつ病の発症は決して低くなく、10数パーセントみられること、発症は出産後4週間以内の早期から見られることなどが明らかになった。また出産後の母親が乳児を抱えて精神科を受診することは、海外同様現実的ではないこともわかってきた。そうすると、産科医師や助産師、看護師などの役割は大きいことも明らかになった。

地域でのうつ病のスクリーニングや妊産婦のメンタルケアの取り組みの重要性は、このような研究の背景から生まれた。平成10年(1998年)からは、福岡市で、大学と地域保健所で共同研究を行った。当時博多保健所勤務の鈴宮らの協力のもと、地域での出産後の保健所からの母子訪問の制度を利用して、九州大学病院が、対象訪問家族における育児環境、産後うつ病、母親の乳児に対する情緒的な気持ちと態度を評価する3つの質問票のセットを用いた母子の評価と支援方法の開発に着手した。3つの質問票は、現在、育児支援チェックリスト、育児エジンバラ産後うつ病質問票、赤ちゃんへの気持ち質問票として使用されている。この地域でのパイロット研究からは、母子訪問の対象となるような過程では、産後うつ病の発症率は高くなり、また乳児に小児科疾患を持っている乳児の母親には

産後うつ病がより効率に発症するという知見を得た。母子訪問の対象は平成 16 年度から 18 年度は、子どもが研究班の主体となり、地域の保健福祉機関の研究協力のもとに、地域に根付いた育児支援の在り方についての検討が始まった。『育児不安』『産後うつ病』『不適切な育児および虐待』のケースを持ち寄り、育児支援の実践のために、支援スタッフを対象とした教育研究のための全国セミナーを行った。その研究には母子衛生研究所が教育セミナーの実践のために協力した。そのセミナーの前後に各地域に赴き、地域の特性を生かした支援の方法についてスタッフ教育とケースの検討を行って来た。宮崎県は地域保健福祉行政を基盤に助産師・看護師協会とともに研修を継続している。

教育効果については、東京大学の上別府らの研究協力により、実際に母子訪問を行い、質問票などを利用して育児支援を行った経験のあるスタッフに高い効果が診られたことも判明した。その後は、病院諸施設から地域の様々な機関まで、各専門性を活かした周産期のメンタルヘルスの治療とケアおよび育児支援について、包括的な取り組みを目指しているが岩手県では、県全体で母子訪問におけるメンタルヘルス評価と育児支援を実践しており、最近では県下の産婦人科機関が妊娠中からのメンタルヘルスの評価から開始している。それらの結果、必要なら、出産後の育児支援を依頼するべく、地域の保健機関と連携を図っている。2011 年 3 月 11 日の大災害は東北・関東地域の広域にわたって甚大な被害をもたらした。沿岸部の広い岩手県も例外ではない。岩手県はこれまでに培ってきた周産期の育児支援の実績をもとに、震災前と後の母親のメンタルヘルス、対児感情の変化や安定性についても貴重な体験を重ね、データもまとめてきた。

最近特記すべきことは、妊娠中からの

継続した育児支援が、子どもたちのその後の長期的で健全な生育に重要との観点から、これまで以上に産科をはじめ小児科や精神科などの医療機関と保健福祉機関や教育機関との連携を強化していることである。九州大学病院においては、いち早く 2001 年から産婦人科と共同で母子メンタルヘルスクリニックを開設し、妊娠中から出産後まで一貫して、妊産婦の精神面の評価、治療、支援を行っている。平成 23 年 10 月 20 日には、厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課発出事務連絡として、日本産婦人科医会に対し、妊娠などについて生やれている型のための相談援助事業の通達がなされ、それによりゼロ歳児からの虐待防止を目指している。

D. 考察

周産期精神医学の臨床ケースの集積は 19 世紀にさかのぼり、フランス人精神科医師の Marce により、その記録がなされている。しかし、精神医学の中でも周産期の分野の研究は比較的新しい。周産期精神医学の国際学会は、1982 年に立ち上げられ、Marce の功績にちなんで Marce Society と名付けられた。以後、研究は英国を中心に進み、その創設者の一人にロンドン大学精神医学研究所周産期部門の Kumar がいる。九州大学病院の吉田らは、1990 年代から彼に研究手法と臨床のあり方を教わってきた。この Marce Society の基本理念は、研究、臨床、教育研修をふまえて、コミュニティに根ざした母子と家族への援助を行うことである。妊娠と出産および育児と家族のありようは各国や地域の文化や医療制度により、それぞれに異なり特徴がある。Kumar らは、Marce Society の理念に基づき、各国から研究者を募り、1997 年から、産後うつ病比較文化研究を 7 年間にわたり推進した。そこに吉田と同大学病院の山下らも参加して、わが国での産後うつ病の頻度や発症の

状況を調査し、治療やケアのストラテジーについて臨床研究を重ね、以下の軌跡を経て今日に至っている。

そこで今年度からの久保班の試みは大変重要である。それは妊娠中の女性の社会心理的なストレス要因そのおのが対字や新生児およびその後の子どもの発達にも負の影響を与えるというエビデンスが発表されているからである。それは胎児プロミング仮説にあげられるように、妊婦のストレスが、胎児循環を遅滞をまねき、さらに過剰なステロイドホルモンの毒性により、胎児に形態異常や胎児の成長阻害を起こし、またこれらの産科データはのちの子どもが多動や情緒、行動の問題へとつながる。そのことがストレスの多い妊産婦の対児感情や態度を悪化させるという悪循環に陥る。

E. 結論

今後の周産期メンタルヘルスについては、妊娠中からのケアが一層重大になってくる。

参考文献

Yoshida K , Marks MN , Kibe N , Kumar R , Nakano H , Tashiro N :
Postnatal depression in Japanese women who have given birth in England .
J Affect Disord 43 : 69-77,1997

Yamashita H , Yoshida K , Ueda M , Tashiro N , Nakano H :
Postnatal Depression in Japanese Women —Detecting the early onset of postnatal depression by closely monitoring the postpartum mood— .
J Affect Disord 58 : 145-154, 2000

Ueda M , Yamashita H , Yoshida K :
Impact of infant-related problems on postpartum depression : Pilot study to evaluate

a health visiting system .

Psychiatry and Clinical Neurosciences 60(2) : 182-189,2006

Kamibeppu K, Furuta M. Yamashita H, Sugishita K, Suzumiya H, Yoshida K :
Training health professionals to detect and support mothers at risk of postpartum depression or infant abuse in the community: A cross-sectional and a before and after study. BioScience Trends 3(1) : 3(1): 17-24, 2009

Yoshida K, Yamashita H, Conroy S, Marks M, Kumar C: A Japanese version of Mother-to-Infant Bonding Scale: factor structure, longitudinal changes and links with maternal mood during the early postnatal period in Japanese mothers. Archives of Women's Mental Health 15:343-352, 2012

参考図書

吉田敬子，山下 洋，岩元澄子：
育児支援のチームアプローチ - 周産期精神医学の理論と実践 - .
吉田敬子（編著）金剛出版，東京，2006

